



大田原のグリーン・ツーリズムが昨年の7月に始動。その目的は、10年後、20年後の大田原の人口減少を少しでも食い止め、大田原そして那須地域の魅力を発信し続け、担い手を作り出していくこと。

ただいま、言いたい。
ふるさと「大田原へ
ようこそ」。

特集
special feature article



大田原のグリーン・ツーリズムの 価値と動向

地域活性化のため始動したグリーン・ツーリズムの
価値の再発見とその動向について、お伝えしていきます。

地域の現状、増加する限界集落

地域の現状を皆さんはご存じでしょうか？現在の大田原市の人口は約7万6千人強、今後の大田原市はどうなっていくのでしょうか？

国立社会保障・人口問題研究所が出す人口の推計では、大田原市は2010年比較で2040年には80.2%の6万2千人となります。さらにこの統計では、県内で人口が約半分(50%代)になる自治体もでてきます。今のまま何も対策をしなければ、大田原市を含み、人口減少が食い止められません。

限界集落

限界集落は、「過疎化などで人口の50%以上が65歳以上の高齢者になって冠婚葬祭など社会的共同生活の維持が困難になった集落」と定義されています。このような集落が日本各地で広まっています。ほとんどが対策を打っても、すでに遅いと言

われています。

この勢いが関東までも広がりがつあり、大田原市でも少子高齢化が進んだ集落が見え始めています。今から対策を進め、地域の担い手を作る行動をしないと、集落の伝統、歴史、文化が消滅する危機にさらされることになるのです。

グリーン・ツーリズムの意義

グリーン・ツーリズムを端的に言えば、「大田原でできるふるさと体験を通じて都会からの観光客を受け入れること」ともいえます。農業体験や農家の家に泊まるいわゆる農家民宿を通じて、この大田原を満喫し、市民の方々と交流し、大田原のファンになつてもらうことです。その意義は、10年後、20年後の人口減少を食い止めるため、大田原へ移住する人を作っていくことなのです。

大田原のグリーン・ツーリズムの体制

グリーン・ツーリズムの体制は主に3つの組織からなります。地域の情報発信・行政的な手続きを行う大田原市、勉強会や視察を通して体験などの現場作りを行う協議会、営業や調整を行う会社、です。この3つの組織が役割を分担し、地域のグリーン・ツーリズムが推進していきます。

学校
旅行会社
企業
団体
など

受入窓口

大田原市

グリーン・ツーリズム推進
のための各種支援

出資・設立

事務局運営

株式会社
大田原ツーリズム

連携

大田原グリーン・ツーリズム
推進協議会

前田牧場の 循環型農業体験 & ヨガ

平成25年
3月16日
参加者8名

この日は、参加者8名のうち東京からの参加者が3名。女性だけのツアーということもあり、活気に満ちた楽しい雰囲気でした。前田牧場さんのホルスタイン牛の肥育のことや、牛糞から作る堆肥の話、そして野菜作りの話など。

そして、お昼は特製の「葉膳しゃぶしゃぶ」をご馳走になり、午後は古民家でヨガ教室を行うという一日満喫ツアーでした。
参加した方々は、ふるさと体験を通じて、癒しを感じたとのことでした。



私たちは始めています
**ふるさと
体験の様子**



旧須賀川小学校の木造校舎で人材育成の講師による社員研修の講義、その合間に農業体験、大雄寺での坐禅体験、地元の食材を使用した昼食、夜は農家民宿の体験も味わえる充実した研修でした。その後も、農家の方と宿泊に来た方との繋がりがあつてです。



平成25年
2月~3月
3回開催

企業研修 & 旅行会社 視察ツアー

平成24年
8月6日~7日
参加者25名

青山スクールオブ ジャパニーズ

東京・青山の日本語学校の留学生25名が1泊2日で開催しました。道の駅で入村式を開催し、黒羽高校の学生が黒羽太鼓を披露、名誉農業士である五月女昌巳さんの家で、他5名の協力者と一緒に竹細工、流しそうめんを高校生と一緒に体験しました。

その後は、各農家に3~5名に別れ、それぞれの家で生活体験を行い、1泊を農家で過ごしました。2日目は、黒羽を散策、黒羽観光やなどあゆ料理を体験しました。



プチ断食ツアー @蜂巣小学校

平成25年
5月~6月
5回開催

実際にツアーを開催してみると、年齢層は幅広く、下は20歳代から上は60歳代までの方々が参加しました。異なる年齢層の方が初めて出会い、2日間のプログラムを通じて多くのコミュニケーションの場が生まれました。
校舎の懐かしい木のぬくもりを感じつつ昔の合宿を思い出すような雰囲気、抵抗なく参加者の皆さんが打ち解けあい、とてもアットホームで和やかなツアーとなりました。



Green Tourism

大田原でできる「ふるさと体験」を通じ 都会からの観光客を受け入れる

1年間の実績

この1年間の実績は目覚ましいものがあり、協議会、会社を設立、会社設立後すぐにモニターツアーを実施しました。その後、パンフレットを作成、東京を中心に営業を行い、数多くの視察を受け入れました。1年も経たずして中学校の教育旅行の受け入れも始まります。それらの具体的な内容は左記のとおりです。

平成24年

- 5月 大田原グリーン・ツーリズム推進協議会 設立・総会開催
- 7月 株式会社大田原ツーリズム設立
- 8月 初のモニターツアー 日本語学校の留学生の受け入れ
- 10月 第2種旅行業の取得
- 11月 初の個人向けツアーの実施
- 12月 初の旅行会社の視察受け入れ
ファンド組成・募集開始

平成25年

- 3月 宿泊込の旅行会社向けモニターツアーの開催
大手旅行会社との契約

農家・市民の 協力と農家民宿

現在、市内ではすでに14件の農家民宿希望者がおり、うち4件に許可（簡易宿所が下りました。来年度以降、学校での参加など、ある程度の規模の受け入れ体制を整えるために、今年度中に20〜30軒の農家民宿の申請手続きを目指しています。では、その農家民宿のメリットとその後の交流についてご説明します。

農家民宿について

農家民宿の魅力は、人と人との交流から生まれる、他には替え難いしみじみとした感動です。特に都会の子どもたちがさまざまな体験を通して、大田原の素晴らしさに触れ、喜んでる姿を見ることは、地域の住民としてこの上ない幸せなひと時といえるでしょう。

農家民宿を営業するためには、旅

館業の営業許可を取得する必要がありますが、申請の手続きは大田原市がバックアップしますので難しくはありません。申請の前提として申請者が農業経営者である、または家業である農業に従事しているなどの条件を満たす必要があります。

農家民宿を営業する許可を取得したからといって受け入れの義務が発生するわけではありません。その時々々の家庭の事情があり、その都度検討すればいいのです。宿泊の数力月前に大田原ツーリズムから確認の連絡が入りますので、受け入れるかどうかは選択できます。

許可が必要な大きな理由の一つは、旅行者が安心して宿泊できるよう、建物の安全性が基準を満たしているかを確認する必要があるからです。もう一つの理由は、旅行者から宿泊料をいただくためで、無償のボランティアでは長続きしません。農家民宿は収入の増をもたらし、地域振興にとつて重要な要素となりますが、それ以上に旅行者との交流やその後の付き合いから生まれる幸福感と充実感、やりがいと生きがい相乗効果を起こした時が、真に地域が活性化したと言えるのではないのでしょうか。

特集

トピックス

健康
おわたわら塾

子育て

健康・福祉

暮らし

年金・国保

教養・文化

教育

スポーツ

税

産業

イベント

地域の
ひろば



20数年で二万人以上の農業体験を、仲間と家族に支えられてやってきました。新しい大田原のグリーン・ツーリズムとしての呼びかけで、受入農家となり、台湾の方などを受け入れ、写真や手紙の交換へと進み、素晴らしい大田原を体験していただけたと思います。

農家民宿の許可も取得でき、農村と大田原のファンを一人でも多く増やせるよう地域の方々の協力を頂きつつ進めたいと思います。増やせるのは、今、でしようね。

1 民泊提供農家の声

素晴らしい交流に期待

町島 五月女さん

3 日本に家族ができた

民泊提供農家の声

奥沢 竹原さん

韓国の女子留学生を受け入れました。大田原ツーリズムさんを通しての受け入れだったので特に不安はありませんでした。彼女たちの滞在中、私はいつも通り仕事をして、いつもの食卓を準備し、特別なことといえは掃除を念入りにしたくらい。それでも彼女たちは日本に家族ができた大変喜んでくれました。

一晩同じ屋根の下で一緒に過ごすことでより親しくなれるのですね。私たちも妹が増えたようで嬉しかったです。今でも近況を報告しあっているんですよ！



2 民泊提供農家の声

農泊を受け入れて

蛭畑 吉成さん

モニターツアーで会社員の方などを受け入れさせていただきました。まず感じた事は、人との出逢いのすばらしさ！また地域の農業や農家生活の厳しさ、大変さ、そして豊かさや楽しさ、また多くの感動を直接寝食を共にしながら農作業を通して伝えられた事でした。

また農泊された方々が帰られてから、携帯メールやお手紙などで感想が寄せられたりと、繋がりができて、とても嬉しく心とむ時をいただき、これからのグリーン・ツーリズムがとても



楽しみになりました。大田原が活気づき、大きく変身できる事を期待しつつ、自分たちのできる事で関わって行けたらと思っています！